

授業概要

私たちが学ぶ経済学は、経済の「理論」、経済および経済学の「歴史」、経済の「政策」という3つの部門に大きく分かれています。「経済学史」の授業では、経済学の歴史について講義します。この授業の目的は単に過去の経済学説を振り返るだけではありません。経済学の内部での学問の「分業」をふまえて、経済理論と経済政策の重層的な理解に役立つように、他の授業との関連を意識した学びをめざします。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション： 授業のすすめ方と成績評価の方法の説明，基本文献の紹介
第 2 回	なぜ経済学の歴史を振り返るのか： 絶対主義アプローチと相対主義アプローチ
第 3 回	外国貿易は一国の経済発展の礎： 重商主義
第 4 回	農業は一国の経済発展の礎： 重農学派
第 5 回	経済学と古典派経済学の創設者： スミス
第 6 回	人口学の創設者： マルサス
第 7 回	所得分配の長期の動きと比較生産費論： リカードウ
第 8 回	経済成長第一主義への懐疑： ミル
第 9 回	経済発展段階論と通商政策： リスト
第10回	授業の中間のまとめ： キーワードによる復習
第11回	限界革命のトリオ： ジェヴォンズ，メンガー，ワルラス
第12回	ケンブリッジ学派の創設者： マーシャル
第13回	厚生経済学の構築： ピグー
第14回	失業克服の経済学の構築： ケインズ
第15回	授業の総まとめ： キーワードによる復習
第16回	期末試験

到達目標

- (1) 経済学の歴史を学ぶことで、市場を中心とする現代経済社会の基本的な仕組みについて理解することができる。
- (2) 経済的自由主義と介入主義を単なる対立関係として捉えるのではなく、両者の補完関係を説明することができる。

履修上の注意

- (1) 経済学の専門科目ですが、できるだけ平易な表現と事例をまじえて説明します。
- (2) 近代のヨーロッパ世界において生誕した経済学の歴史を学ぶうえで、世界史の知識は欠かせません。授業では、それぞれの学説の時代背景に触れますので、気おくれせずに履修してください。
- (3) 他の授業と同じく、授業の継続的な出席が望まれます。毎回出席票を配布して出席を確認します。遅刻の取り扱いについては初回授業で説明します。

予習・復習

予習： 次回の授業内容についてキーワードを紹介しつつ、予告します。図書館等で事典類を使用してキーワードを調べておきましょう。

復習： 授業のキーワードについて、おおまかな説明ができるように、プリントおよび授業ノートをくり返し見直しましょう。

評価方法

期末試験（60％）とミニレポート（40％）により、成績を評価する予定です。詳細は、初回および第2回の授業で説明します。

テキスト

テキストは使用せず、プリントを配布します。欠席した授業回のプリントは、申請があれば、後日配布しますので、かならず申し出てください。参考文献は、できるだけ手に取りやすく、安価なものを授業中に紹介します。